# 評価機構

# 2017 3 月号

# NEWS LETTER



# 薬局ヒヤリ・ハット事例 収集・分析事業について

医療事故防止事業部 部長 坂口 美佐

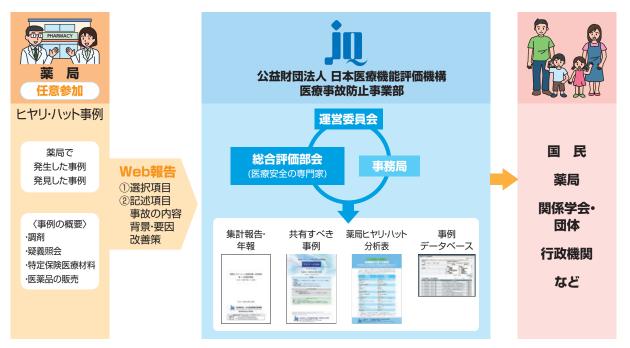
# 1. はじめに

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業は、全国の薬局から報告されたヒヤリ・ハット事例を 分析して、広く薬局が医療安全対策に有用な情報を共有するとともに、国民に対して情報を提供 することを通じて、医療安全対策の一層の推進を図ることを目的としています。本事業は2009 年4月に薬局の参加登録と事例収集を開始し、間もなく8年が経過します。

# 2. 事業の流れ

本事業では、任意でご参加いただいている薬局から、インターネット回線を通じて、ヒヤリ・ハット事例をご報告いただいています。それらの報告事例を集計・分析し、年報や集計報告、「共有すべき事例」などを作成して、本事業のホームページで公表しています。また、報告事例は医療事故防止に活用していただけるように、事例データベースで公表しています。

図表1 薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業の流れ

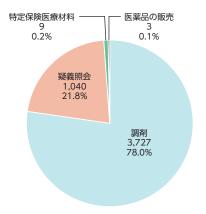


# 3. 事業の現況

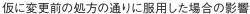
2016年12月31日現在、本事業への参加薬局数は8.700となり、全国の薬局の約15% の割合となっています。参加薬局数は、ホームページの「参加薬局一覧」で随時情報を更新して お示ししています。

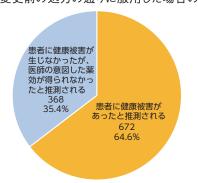
1年間の報告件数は、2015年は4,779件、2016年は少し増加して4,939件でした。報 告の対象は「薬局で発生した、または発見した事例」とされていることから、医療機関における 処方のエラーを薬局で発見し、疑義照会によって正しい処方に修正された事例も含まれています。 これらは医療事故の防止に資する教育的な事例であり、医療機関で処方を出す医師にも参考にし ていただけます。このような疑義照会の事例が報告事例の中で占める割合は年々増加しており、 2015年には21.8%となりました。また、調剤の事例は、医療機関の薬剤部門にも共通する内 容が多く含まれています。

図表2 事例の概要(2015年)



図表3 疑義照会の事例(2015年)





# 4. 情報の提供

本事業が提供している情報はすべてホームページから閲覧・ダウンロードできます。 http://www.yakkyoku-hiyari.jcqhc.or.jp/

#### 1年報

年報は、1年間の報告を集計し、さらに、報告されたヒヤリ・ハット事例についてテーマを設定 した分析を行って掲載しています。2016年11月には前年の報告をまとめた「平成27年年報」 を作成、公表しました。

年報の分析テーマには、以前から継続し て取り上げている「名称類似に関する事例」 や「一般名処方に関する事例」などと、新規 のテーマとして取り上げた「腎機能の低下し た患者に関する事例」などがあります。

図表4 平成27年年報の分析テーマ

- 【1】 名称類似に関する事例
- 【2】一般名処方に関する事例
- 【3】後発医薬品への変更に関する事例
- 【4】ハイリスク薬に関する事例 - 免疫抑制剤に関する事例-
- 【5】疑義照会に関する事例
- 【6】「共有すべき事例」の再発・類似事例
  - 一小児において年齢別に処方量や剤形が異なる医薬品に関する事例一
- 【7】腎機能が低下した患者に関する事例

#### ②事例から学ぶ

平成27年年報から、テーマ毎に「事例から学ぶ」というページを新たに作成し、代表的な報告事例と総合評価部会委員によるポイントを掲載しました。このページは、薬局や医療機関での教育や研修に役立てていただけるように、カラー版PDFをホームページからダウンロードすることができます。

#### 図表5 事例から学ぶ





#### ③薬局ヒヤリ・ハット分析表

年報で分析した内容の中から、テーマ毎に特に重要な図表を見やすくカラー版PDFにまとめてホームページに掲載しています。

#### 4共有すべき事例

報告された事例の中から、特に広く医療安全対策に有用な情報として 共有することが必要と思われる事例 を、本事業の総合評価部会委員に よって「共有すべき事例」として選定 し、事例のポイントを加えて、毎月3 ~7事例程度をホームページに掲載 しています。

図表6 薬局ヒヤリ・ハット分析表



図表7 共有すべき事例



#### ⑤集計報告

半年毎に報告内容を集計し、対象期間の「共有すべき事例」も掲載した冊子にまとめています。ホームページから閲覧・ダウンロードできます。

#### ⑥事例データベース

報告された事例は、ホームページの「公開データ検索」から閲覧し、PDFファイルやCSVファイルなどでダウンロードすることができます。2017年1月現在、50,549件の事例を公表しています。薬局や医療機関の皆様をはじめ、医薬品の製造・販売に関わる方など、多くの方々に活用され、医療安全の推進に役立つことを願っています。

### 「共有すべき事例」の活用例紹介 ~旭川薬剤師会の取り組み~

旭川薬剤師会は、「医療安全通信」を作成し、医療安全推進のため、周知すべき情報やタイムリーな話題を随時発信しています。「医療安全通信」には、薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業の「共有すべき事例」を継続して紹介していただいています。2016年12月には、吸入薬の事例(共有すべき事例2016年9月事例3)が取り上げられました。このほかにも、妊娠と薬物療法、一般名処方の調剤、抗リウマチ剤メトトレキサート製剤などをテーマに情報発信がされています。



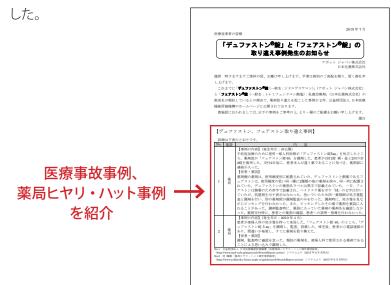


一般社団法人旭川薬剤師会ホームページ http://www.ahmic21.ne.jp/yakuzaishi/

## 事例データベースの活用例紹介 ~製薬企業の取り組み~

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業や医療事故情報収集等事業の事例データベースを活用して、製薬企業から注意喚起が行われています。

2015年7月には、「デュファストン®錠」と「フェアストン®錠」の取り違え事例発生のお知らせが出されま





# **Topics**

#### 病院機能評価 新評価項目Ver.2.0の運用について (評価事業推進部)

2018年4月より、新評価項目〈3rdG: Ver.2.0〉の運用が開始されます。2018年4月以降に受審をご希望の場合は、以下のとおりとなりますので、何とぞご承知おきください。

また、特定機能病院および大学病院等を対象とした評価項目「一般病院3(仮称)〈3rdG: Ver.2.0〉」を新たに開発いたしましたので、ご検討ください。

2017年4月	〈3rdG: Ver.2.0〉評価項目案等の公表
6月	〈3rdG: Ver.2.0〉評価項目運用版の公表
7月	〈3rdG: Ver.2.0〉 病院機能改善支援セミナー
10月	〈3rdG: Ver.2.0〉解説集販売開始

<sup>※</sup>上記予定は変更になる場合がございます。

#### 平成28年度教育研修実績 (評価事業推進部)

評価機構では、医療の質改善を促進させるための個への教育として、「医療クオリティ マネジャー養成セミナー」(年3回)と「医療対話推進者養成セミナー」(年10回程)

を実施しています。今年度の修了実績は以下の通りです。

#### 【医療クオリティ マネジャー養成セミナー】

		16130 C ()	4
第1回	第2回	第3回	合計
36名	52名	54名	142人

#### 【医療対話推進者養成セミナー】

日程A	日程B	日程C	日程D	日程E	日程F	日程G	日程H	日程J	合計
30名	29名	269名							

来年度のセミナー日程、申し込み、その他セミナープログラム等の詳細は、病院機能評価事業ホームページ (https://www.jq-hyouka.jcqhc.or.jp/) をご覧ください。

#### 補償申請期限に関する周知を行っています (産科医療補償制度運営部)

産科医療補償制度の補償申請期限は、児の満5歳の誕生日までとなっています。補償申請期限を過ぎた ために補償申請ができなくなるといった事態が生じないよう、厚生労働省、関係学会・団体の支援のもと、

全国の脳性麻痺児が利用している施設、産科・小児科、自治体等へチラシ・ポスターを送付するとともに、インターネットに広告を掲載するなどの周知を継続的に行っています。また、各都道府県にご協力いただき、全ての都道府県のホームページにも本制度の案内を掲載いただいています。

皆様の周りで補償対象と考えられる児がおられましたら、本制度専用コールセンター(0120-330-637)を保護者へご案内いただきますよう、ご協力をお願いします。

補償申請の考え方の詳細は、本制度ホームページをご参照ください。 http://www.sanka-hp.jcghc.or.jp/application/sphere.html



補償申請期限に関する ご案内のチラシ

最新の情報は、病院機能評価事業のホームページ (https://www.jq-hyouka.jcghc.or.jp/) をご確認ください。

#### Mindsフォーラム2017開催報告 (EBM医療情報部)

EBM医療情報部では、1月28日(土)にMindsフォーラム2017 「患者・市民のための診療ガイドライン」を開催しました。参加者は164名で、医療関係者のほか、一般の方にも多くご参加いただきました。

当日は、実際に診療ガイドラインを作成した患者と医療者、診療ガイドラインを利用する患者と医療者、

それぞれの立場からご講演いただきました。また、診療ガイドラインに患者・市民の希望や価値観を取り入れることの重要性について討論いただきました。会場からは、今後も診療ガイドラインの重要性を患者・市民向けに普及、啓発する取り組みを続けてほしいとコメントを頂戴しました。

詳細は、Mindsウェブサイトトップページ ガイドライン利用者向け情報内「レポート」に公開予定です。ぜひご覧ください。

Mindsウェブサイト http://minds.jcqhc.or.jp/



#### 報告書および医療安全情報の公表について (医療事故防止事業部)

医療事故情報収集等事業は、2016年7月~9月に報告いただいた医療事故情報とヒヤリ・ハット事例を とりまとめた第47回報告書を12月26日に公表しました。本報告書では、以下のテーマを取り上げました。

- ○腫瘍用薬に関連した事例
  - ③「指示、調剤、準備、患者への説明・指導」の事例
- ○歯科治療中に異物を誤飲・誤嚥した事例
- ○小児用ベッドからの転落に関連した事例

また、1月16日に医療安全情報No.122「透析前の体重測定の誤り」、2月15日にNo.123「永久気管孔へのフィルムドレッシング材の貼付」を公表しました。

詳細は、ホームページをご覧ください。

http://www.med-safe.jp/



No.122(1ページ目)



No.123 (1ページ目)

#### 平成28年度第3回 医療の質・安全に関するオンラインセミナー開催のご案内 (総務部)

3月16日(木)19~20時に無料のオンラインセミナーを開催します。今回は、「日常診療における診療ガイドライン活用法の基礎」をテーマに、当機構執行理事/東京女子医科大学医学部の山口直人教授にご講演いただきます。

インターネット環境さえあればどこからでも視聴できますので是非ご参加ください。お申し込みは当機構ウェブサイト「イベント情報」(http://www.jcqhc.or.jp/event/) より受け付けています。

※本セミナーは国際医療の質学会 (ISQua) の教育プログラムのコンテンツです。詳細はISQuaのウェブ

サイト(http://www.isqua.org/)をご覧ください。



# Information

各イベントの申し込み方法、詳細については当機構のホームページのイベント情報を ご覧ください。開催日の概ね2か月前よりお申し込みの受付を開始します。

http://www.jcqhc.or.jp/ 日本医療機能評価機構 ▶ホーム ▶イベント情報

#### 3月

	10・11日	(PSP)院内自殺の予防と事後対応のための研修会
3月	16日	平成28年度第3回医療の質・安全に関する オンラインセミナー
	18日	(PSP)患者安全推進全体フォーラム

詳細は順次掲載されるホームページをご覧ください。

#### ■医療クオリティ マネジャー養成セミナー

病院の自律的かつ継続的な医療の質改善活動を 支援するために、病院内で質改善活動の中心とな る人材「医療クオリティマネジャー」を養成するプログラムです。病院内の継続的質改善に必要な幅 広い知識やスキル等を4日間の集合研修と継続研修等を通して提供します。

#### 【平成29年度開催日程】

第1回	7月19日(水)·20日(木)
	8月18日(金)・19日(土)
第2回	9月13日 (水) · 14日 (木) 10月19日 (木) · 20日 (金)
第3回	12月13日 (水) · 14日 (木) 1月19日 (金) · 20日 (土)

3月1日(水) 10:00より申し込み開始いたします。 詳細は病院機能評価事業ホームページをご覧くだ さい。

[問合せ] 評価事業推進部(03-5217-2326)







今号が本年度最後の号となります。ご愛読ありがとうございました。バックナンバーはホームページで公開しておりますので、ぜひご覧ください。

来年度、当機構は国際医療の質学会(ISQua)が実施する国際認定(IAP)の更新審査を受審します。病院機能評価の評価項目と組織体制が国際的な水準にあることが審査されます。

日本の医療の質向上を支援する組織として、引き続き改善に取り組んでまいります。

※詳細はホームページをご覧ください。(英語)

ISQua (http://www.isqua.org/home)

IAP (http://www.isqua.org/accreditation/accreditation)

### 認定病院の改善事例紹介シリーズ 「Improve」のご案内

認定病院の改善事例紹介シ リーズ「Improve」(リーフレット)を発行しています。

今年度は「患者中心の医療」 をテーマに、病院機能評価を活 用して改善に取り組んだ病院の 事例を紹介しています。2017年 1月に発行した第8号では、愛



知県の精神科病院を取材し、地域に根ざした医療の 取り組みについて取り上げています。

バックナンバーは病院機能評価事業のホームページ(https://www.jq-hyouka.jcqhc.or.jp/)にも掲載していますので、ぜひご覧ください。

# 患者安全推進ジャーナルのご案内

当機構の認定病院患者安全推進協議会が発行している機関誌です。No.47が3月末に発行されます。No.47の特集は「確認する文化を高める」です。

バックナンバーの一部は、認定病院患者安全推進 協議会のホームページで公開しています。

#### ●会員病院(1,000円+税)

会員病院には毎号3冊を無料でお送りしています。追加購入をご希望の場合は、認定病院患者安全推進協議会のホームページより会員サイトにログインのうえ、お申し込みください。会員価格となります。

●会員外病院(3,000円+税)

当当機構ホームページ>出版・ダウンロードからお申し込みください。

#### 評価機構

# NEWS LETTER 2017 年 3 月 1 日発行 (奇数月 1 日発行)

発行:公益財団法人日本医療機能評価機構(略称:評価機構)

発行責任者:河北 博文

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1丁目4番17号 東洋ビル TEL: 03-5217-2320 (代) / (編集: 総務部情報企画課) 03-5217-2335

http://www.jcqhc.or.jp/ e-mail:info@jcqhc.or.jp

本誌掲載記事の無断転載を禁じます